

「国際交流会 -環境デザインの最前線-」

2016. 11. 14 発行

ハーバード大学の大学院生の方々を招き、交流会を開催いたしました

2016年11月14日に、ハーバード大学デザイン学部ランドスケープアーキテクチャ学科の大学院生との交流会が、中央大学理工学部人間総合理工学科環境デザイン研究室にて行われました。

ハーバード大学大学院は他分野の知識をもった学生を受け入れることで、分野の活性化を図っています。そのため、学部時代の専攻に関わらず、大学院での専攻を自由に選択でき、そのような学生には特別なプログラムを提供しています。今回、来校した4名の大学院生は3年間のランドスケープアーキテクチャプログラムの一環として来日しました。日本の最先端のランドスケープを見てみたいということで、石川教授の活動や研究を学びにきました。

交流会では、環境デザイン研究室で行ってきた活動である「東日本大震災の復興」「おとめ山公園エコロジカルパーク」の説明を石川教授が行いました。特に、復興支援を行った宮城県岩沼市玉浦西地区のまちづくりの話では、震災発生から復興までの活動過程とランドスケープの果たした役割について深く興味をもってくださいました。また、学生からは人間総合理工学科の演習で提案した「後楽園地区再生計画」「新しい皇居外苑のかたち」についての説明を行い、ディスカッションをしました。

今回の交流会では、中央大学の学生は海外に視野を広げる大切さを再確認する良い機会となりました。また、ハーバード大学の大学院生は環境デザイン研究室の活動を知ることを通して、日本のランドスケープの展開を学ぶことができ、お互いにとって有意義な時間となりました。今後も環境デザイン研究室では、国内に留まらず国際的な活動も積極的に行っていきたいと思えます。



石川教授の震災復興の話に熱心に聴く
ハーバード大学の大学院生



2015年度の学生プロジェクト
「後楽園地区再生計画」の説明をする森田さん



2016年度の学生プロジェクト
「新しい皇居外苑のかたち」の説明をする佐藤君



学生プロジェクトにも興味を持ち、
質問をするローラさん



交流会に参加したハーバード大学と環境デザイン研究室の学生
左からエミリーさん、ローラさん、ラニーシャさん、レオナルドさん